



今月の題字
 たかや
濱 登 貴 也くん
 (船越小5年)

町のわだい

町総合防災訓練を実施 2,348人が高台などへ避難

町総合防災訓練が9月3日午前5時半から行われ、町民の皆さんを対象とした津波避難訓練など、万が一の災害に備えた各種訓練が繰り広げられました。北浜地区では8月29日に交付されたリヤカーやハンド型メガホンを活用し「津波です。避難してください」と地域住民に呼び掛け、町全体で2,348人が高台などへ避難しました。避難訓練終了後は町民グラウンドに会場を移し、航空自衛隊などによる林野火災防御訓練、田の浜婦人消防協力隊による応急救置訓練などが行われました。



「喜寿を祝う会」に107人 心温まる催しに大きな拍手

9月23日、喜寿を祝う会が町中央公民館を会場に開けられました。会場には招待者242人中107人が出席し、共に長寿を祝い合いました。開会に先立ち、沼崎喜一町長が「喜寿を迎えられた皆さん、おめでとうございます。どうか健康に留意され、長寿を全うしていただきたい」とあいさつ。今回は食生活改善推進委員の皆さんにより、出席者に作りたての温かいお弁当が振る舞われました。アトラクションとして保育園の園児や婦人団体協議会などによる踊りが披露され、参加した皆さんは心温まる催し物に惜しめない拍手を送っていました。



誘致外来漁船第1号が入港 山田魚市場でサンマ初水揚げ

山田魚市場に9月23日早朝、今季初めてサンマが水揚げされました。今年3月に設立された山田魚市場外来漁船誘致協議会(阿部金一会長)が誘致活動を始めてから第1号の水揚げであり、秋の味覚の到来に浜は活気づきました。水揚げしたのは宮城県石巻市の第18鹿島丸(177トン)で、北海道沖で獲れたサンマ約101トンを水揚げ。船底から棒受け網で引き上げられた銀色のサンマは次々にトラックに積み込まれ、宮城県方面に出荷されていきました。外来漁船は今後も入港する予定となっています。



八千代 創立20周年記念式典 地域のさらなる発展誓う

9月10日、八千代地区自治会(吉川義男会長・80世帯)の創立20周年記念式典が豊間根生活改善センターで開かれ、地区民85人が出席して節目の年を祝いました。式典では吉川会長と来賓の沼崎喜一町長のあいさつに続き、豊間根小5年の吉川瑠香さんが地区内に住む小学生一人一人の書いた「子供たちが望む地区の未来」を朗読。祝宴会では踊りや空手演舞が披露され、参加した皆さんは食材を持ち寄って作った料理を食べながらこれまでの活動を振り返り、地域のさらなる発展を誓い合っていました。

ライオンズ 遊具3基を町に寄付 親子のふれあいに役立てて

陸中山田ライオンズクラブ(平塚六郎会長・会員23人)では、町に太鼓橋型うんてい1基とシーソー2基を寄付し、船越公園に設置しました。贈呈式は9月15日、船越公園で行われ、会員ら10人が出席。佐藤葵遊具設置実行委員長が「地域社会への奉仕活動の一環として、この遊具を親子の交流に役立てていただきたい」とあいさつし、平塚会長から沼崎喜一町長に目録が手渡されました。沼崎町長は「皆さんの地域を愛する心に感謝いたします。この公園は町内外から家族が訪れていますので、大いに喜ばれ利用されると思います」とお礼を述べました。



山田八幡宮・大杉神社神幸祭 町を包む伝統の祭りばやし

山田八幡宮と大杉神社の神幸祭が9月17日と18日に行われ、町中が笛や太鼓の祭りばやしに包まれました。17日は山田八幡宮のみこしが金色の光を放ちながら町を練り歩き、日もとっぷり暮れた午後9時ごろ、みこしが境内に帰ってくると祭りもクライマックス。みこしを担いだ威勢のいい男衆が最後の石段を上り切ると、詰め掛けた観衆から歓声が上がりました。18日の大杉神社のみこし海上渡御は、雨天のため引き船が中止となりましたが、みこしが海中を練り歩く「お塩垢離(しおごり)」は、担ぎ手が雨に打たれながら陸と海を何度も往復。浜は例年以上に沸き立ちました。JR陸中山田駅前広場に設けられた特設会場「お祭り広場」では、みこしの渡御や町内外の郷土芸能が披露され、大勢の家族連れでにぎわっていました。